

マルコの福音書  
第7回 罪を赦す権威  
(2:1~12)

《アウトライン》

1. カペナウムへの帰還 (1-2 節)
2. 中風の人 (3-5 節)
3. 律法学者の反応 (6-7 節)
4. 罪を赦す権威 (8-12 節)

《結論》 3つの人々、それぞれへの愛

---

《聖書研究メモ》

古代パレスチナの平均的な家の構造

- ・ 平屋建てで、いくつもの小さい部屋 (5m 四方程度) から構成されていた。
- ・ 屋根は平らで、3層構造になっていた。
  - 木の梁を渡す
  - 枝や葉、藁などで覆う
  - 粘土で固める
- ・ 屋根はかなり頑丈で、屋上は生活の場となっていた。(仕事場、貯蔵場、物置、夏の寝る場所など)
- ・ 家の横には屋上に通じる階段があり、外から直に屋上へ行けるようになっていた。

2:3 「中風の人」

- ・ ギリシャ語でパラルティコス。
- ・ 麻痺した状態、歩くことができない状態を指す。

2:10 「人の子」

- ・ イエスがメシアであることを示す称号
- ・ 参考：ダニエル書 7:13-14 (「御国の福音」第11回テキスト pp. 9-10 も参照)

13 節 私がまた、夜の幻を見ていると、

見よ、人の子のような方が

天の雲とともに来られた。

その方は『年を経た方』のもとに進み、

その前に導かれた。

14 節 この方に、主権と栄誉と国が与えられ、

諸民族、諸国民、諸言語の者たちはみな、

この方に仕えることになった。

その主権は永遠の主権で、

過ぎ去ることがなく、

その国は滅びることがない。